

Q2 国立大学は、もっと地域の人たちなどに開かれたものであるべきではないでしょうか？

A そのとおりです。

国立大学が地域の人たちなどに開かれたものになるよう様々な取組を行っています。

国立大学は社会経済の発展を支える人材育成と学術研究を行うという大きな役割を担っています。また、地域の人たちの学習機会の充実など、生涯学習社会の中で重要な役割を果たすことが期待されています。国立大学のこのような重要性にかんがみ、学生から徴収する授業料等のほか国費の投入により運営されています。

しかしながら、国立大学は閉ざされているというイメージが根強く残っており、真に「地域に開かれた大学」となるためには、今以上に、国立大学が行っている教育研究の内容を国民の方々に理解していただくこと、国立大学の機能や施設設備を地域の人たちに開放することが必要とされています。

このため多くの大学では、次のような取組を行っています。

大学公開講座

国立大学等が持っている専門的、総合的な教育・研究機能を社会に開放することにより、生活上、職業上の知識、技術及び一般的教養を身に付けるための学習の機会を広く社会人等に対して提供するものであり、地域における生涯学習の機会の一つとして極めて有意義なものです。

これは、一つの情報公開でもあり、「この大学では、このような研究を行い、こういう教育を学生に行っています。」という情報を公開する場にもなっています。

【講座例】

- 情報公開を考える（北海道大学）
- 社会人のためのホームページ作成（静岡大学）
- 機械工学の先端を探る（東京大学）
- 環境汚染物質と生活～ダイオキシンを中心に～（滋賀大学）
- 霊長類の進化（京都大学）
- 市民健康講座（愛媛大学）
- これからの農業と環境問題（九州大学）
- 2000年問題緊急対策講座（鹿児島大学）

大学等地域開放特別事業（大学子ども開放プラン）

平成11年度からは、「全国子どもプラン（緊急3ヶ年戦略）」の一環として学校の休業日となる土曜日等に大学等の高等教育機関が持つ教育機能や施設を広く子どもたちや地域社会に開放しています。最先端の設備による超伝導実験の見学や天文学習，附属農場や演習林での農業体験活動，実習船による体験航海など，日常では体験することのできない事柄に直接触れたり，見たりできる多彩な活動の機会の提供に取り組んでいます。



園芸体験教室
（宇都宮大学農学部附属農場）

そのほか，多くの国立大学においては，地域の人たちが日常生活の中でスポーツ活動に親しむことができるように，体育施設の開放についても積極的に取り組んでいます。